

令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年6月1日

学校法人 宮地学園

幼稚園型認定こども園 杉の子せと幼稚園

当園ではこの度、学校評価として、教職員の自己評価と学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自分自身や園全体を見つめ直すよい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

教育方針：「笑顔いっぱいの杉の子せと幼稚園！！」
教育目標：1. つよく・かしこく・たくましい子どもの育成。
2. 感性豊かなおもいやりのある子どもの育成。
望ましい子どもの姿：「自分の力で、仲良く、元気に、もうひと頑張りする子。」

2. 本年度重点目標・計画

子ども・保護者・教職員全員が笑顔ですごせる”チームせと”をめざす。
・教育課程の改善：行事や教育・保育をその都度検討・協議し、幼稚園教育要領が示す10の姿も踏まえた保育計画に見直しを図り、環境設定を行う。実践を大切に、子どもの成長を促す援助方法を探る。放送教育を取り入れ、教育・保育の質の向上を図る。
・職員の資質向上：職員間の話し合いの充実を計るため、職員会のあり方を研究する。公開保育の実施と職員会や学年会等を通しての情報交換を活発に行い、子ども理解やスキルアップを図る。
・特別支援教育の充実：関係機関との関係や教職員間の連携を深めながら支援の必要な子どもに寄り添える指導・支援を行う。
・安全管理体制の強化：アレルギー対応を含む安全で安心の給食環境を作る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	A	・教育・保育活動の「反省、振り返り、評価」を重視した教育・保育実践に務め、子どもが笑顔で主体的に成長することを目指した。その結果、「反省、振り返り、評価」が、日々の教育・保育実践に定着するようになり、主体的な活動に取り組む園児の姿が多く見受けられるようになってきた。
2	職員の資質向上(研修・情報共有等)	B	・園の特色を生かした保育環境と保育内容を様々な角度から提案、議論するため、“語り合い”の時間を設けた。誰でも活発に意見が出せるよう工夫することで、新しいアイデアや情報を試してみようというチャレンジする姿勢が生まれ、保育の発展につながっている。

3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する (家庭との協力・連携も含む)	A	・特別な支援のいる園児一人一人の理解に努め、その子にあった対応や援助を探り出している。そして、全職員が共通理解を図ったうえで、協力しての指導・援助ができています。また、発育・発達で困ったことがあれば、その都度、全職員で話し合いをもつと共に関係機関とも連携を取り解決策を模索するように務めている。
4	安全管理体制の強化	B	・アレルギー対応では、保護者と連携を取りながら可能な限りの個別対応を行っている。また、配膳を工夫したり担任、副担任の複数の目でチェックをしたりすることで、安全な給食の提供ができる体制をつくってきた。

評価の基準 (A:十分達成されている。 B:達成されている。 C:取組まれているが、成果が十分でない。 D:取り組みが不十分である。)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目について重点的に取り組み、一人一人の乳幼児を大切にされた質の高い教育・保育を実践することができたし、さらなる質の向上に向けた課題も明確になった。

評価の基準 (A:十分達成されている。 B:達成されている。 C:取組まれているが、成果が十分でない。 D:取り組みが不十分である。)

5. 今後取り組むべき課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育内容	<p>“語り合い”の効果が始め、職員のより良い保育、環境構成の工夫への意識が高まっている。これが負担にならないように続けていけるようにする。</p> <p>幼稚園部、保育園部の公開保育を核にし、教育実践のねらいに対する観点で研究協議を行い、保育者個々のスキルアップを図っていく。今後も、教職員のスキルアップのために研修交流と情報共有を大切にしていきたい。</p> <p>担任中心の子ども把握や理解が多いので、教職員間の情報交換を活発に行う必要がある。担任だけでなく、全職員がすべての子どもに係わり、把握や理解するように務める。また、特別な配慮を必要とする乳幼児の情報も全職員で共有し、共通理解を深めていく。</p> <p>慣れや不注意から対応がなおざりにならないよう常に高い意識をもって、安全な給食環境を作るように心がける。また、地震発生時の対応も常に意識し、園内で一つの命も失わない行動がとれるように心がける。</p>

6. 学校関係者の評価

<令和3年度後援会長>

制限が多く、今まで通りが難しい保育環境のなか、子供達が笑顔になれるような取組をたくさん模索していただきました。また、SNS等IT技術を活用し、行事等に参加できない保護者も内容を共有できるよう努めさせていただきました。

園と後援会とは情報共有できており、また、園に要望・改善案を提出した場合は必ず検討していただきました。

登・降園時、園長先生はじめ先生方が門に立ち子供達を見守ってくださっているのは、園児一人一人を大切に想ってくださっているのが伝わります。

<横浜新町小学校長>

・PDCAサイクルが確立された教育実践が子どもの主体性を育てていると思います。その都度の評価を園児さんにかえすことによって園児さんが気持ちよく活動している様子が浮かんできます。

・誰もが活発に意見が言い合えるような場の設定を作り出す取組が大変素晴らしいですね。職員の主体性がさらなる園児さんの主体的な活動につながっていくことと思います。

<あたご幼稚園長>

心配と不安を繰り返しながら2年目のコロナ禍を終えました。多くの制約を受ける中でも、諦めずに、一生懸命進んできた足跡を資料から確かに読み取りました。素晴らしい一年をお過ごしであったと感じます。今日的な課題に、臆さず正面から向き合ってくられた先生方お一人お一人の姿勢そのものが、最大の成果であったのではないかと推察します。このご苦勞は自信になっているはずで、すでに大変な力を身に付けておられると思います。今後は、「頑張る」から「楽しむ」にシフトしてはいかがでしょうか？先生方がしっかりと仕事を楽しむことが、やがては学園の力そのものになると思います。

<評議員/株式会社メディア・エーシー取締役会長>

杉の子せと幼稚園にお伺いするのは年に1~2度、パンフレットの写真撮影の折である。

広々とした園庭で、とにかく子供たちが明るく元気に走り回ったり、楽しそうに遊んでいる印象がある。

先生方も傍目には子供たちとごく自然に屈託なく楽しそうに遊んでいるように見えていたが、パンフレットにも記載されている理念や自己評価報告書に記載されている様々な目標設定やそれらに対する細やかな対応に眼を通すと、あの子供たちの笑顔が堅実で緻密な取り組みに裏付けされていることに気づかされる。